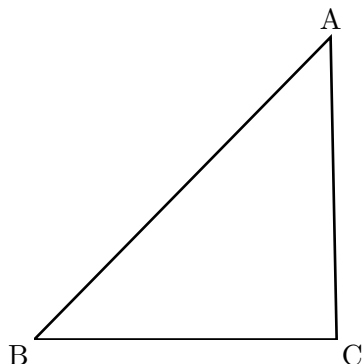


3組の辺がすべてわかるとき。

三角形を書きましょう。以下の三角形を書くためのプログラムです。



```
¥begin{pszahyou*}[ul=8mm](0,5)(0,6)…①
¥tenretu{B(0,0)sw;C(5,0)se}…②
¥CandC¥B{7}¥C{5}¥AA¥A…③
¥Put¥A[n]{A}…④
¥Takakkei{¥A¥B¥C}…⑤
¥end{pszahyou*}…⑥
```

①は pszahyou\* という座標軸を表わすもの (\*は座標軸を表示しないという意味) で、この座標軸上に図を書きますという宣言みたいなものです。ul=8mm とは座標の1目盛りを8mmにしますという宣言です。その隣の(0,5)はx軸は0から5の範囲を使います。(0,6)はy軸の0から6までを使いますという意味です。つまり(0,5)(0,6)で5×6の長方形の範囲に図を書くという意味を表わすことになります。

②は点Bの座標は(0,0)で点Cの座標は(5,0)で、そのBとCの文字をどこに表示するかを表わしているのが、sw(南西方向に表示)、se(南東方向に配置)で表示しています。表示しない時は¥tenretu\*にして、swなどを省けば表示されません。

③の ¥CandC¥B{7}¥C{5}¥AA¥A は点Bにコンパスをさして、半径7の円を書いて、点Cにコンパスをさして、半径5の円を書いて、その交点をAA、Aとします。

④は③で求めた点AA、AのうちAのn(北方向)にAを表示させることを意味しています。

⑤は点A、B、Cを頂点とする多角形を書きなさいというコマンドです。

①と⑥はセットですので忘れないでください。後基本的なことですが、パッケージの宣言を忘れないようにしてください。今回のメインパッケージは

```
¥usepackage{graphicx}
```

```
¥usepackage{emathPs}
```

です。ご参考に、より詳細は emath Wiki などからご覧ください。